

地域医療連携だより

かまんざ



高度救命救急センター
地域連携フォーラムを開催しました

② 新年のご挨拶

院長 小林 裕

地域医療連携・入退院支援室長 副院長 魚嶋 伸彦

③ 令和6年度 京都第二赤十字病院 高度救命救急センター地域連携フォーラム

④ ⑤ Red Crossニュース スクラムを組む医療従事者たちVol.11 自己免疫疾患センター

地域連携フォーラムを開催しました

⑥ トピックス、お知らせ

当日紹介・予約・診療に関するお問い合わせ

地域医療連携係



075-212-6186

平日 8:30~19:30
土曜日 9:00~13:00



新年のご挨拶



2025年新春に際して



院長
小林 裕

新年あけましておめでとうございます。皆様には令和7年、よいお正月を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年は元日に能登半島地震があり、7月以降には能登半島を含め各地に豪雨被害、8月には南海トラフ地震臨時情報などがありました。異常気象は、もはや異常ではなく通常化しています。我々は赤十字組織の一員として、災害救護に病院全体として取り組む意識をさらに強くしています。

さて、当院は一次から三次救急までの対応をしておりますが、昨年4月に京都府最初の高度救命救急センターの指定を受け、府内救急医療の最後の砦として、意識をさらに強くしたところ です。また、

昨年末には2台目ダヴィンチを導入しましたので、外科、泌尿器科、呼吸器外科に加え、婦人科も含め活用を広めたいと考えています。手術症例のさらなるご紹介をよろしくお願いいたします。患者さんの受療行動はコロナ禍で変化したようで、コロナウイルス感染症流行前の入院患者数まで戻っていませんが、外来診療は極力専門特殊外来に特化し、救急医療、がん診療や特殊専門医療の入院診療にさらに注力したいと思っています。そのためにも、皆さんとの連携をさらに強めていきたいと考えています。

新病院建設に関しては昨年5月、北に隣接する京都府警別館移転後跡地の借用が決定され一歩前進しました。資材費高騰などで建築単価は数年前の2倍近くになっていますが、この地で「安全で、質の高い医療を、将来にわたって継続して提供」していくためには、新病院建設は必須です。我々も変わるべきところは柔軟に変わり、一つ一つ課題に対応しながら、患者さんに寄り添う想いは貫きつつ、一丸となって頑張る所存です。引き続きよろしくお願いいたします。

地域に貢献できる医療機関であり続けることを目指し、皆様との連携強化に努めてまいります



地域医療連携・入院支援室長
副院長
魚嶋 伸彦

2025年の新年を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

昨年は多くの患者さんを当院にご紹介いただき、心より感謝申し上げます。

本年も引き続き、地域の先生方や住民の皆様信頼される医療機関であり続けられるよう、職員一同努力してまいりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

2024年におきましては、地域医療連携・入院支援室として、地域の先生方や医療機関様とのさらなる医療連携の推進および円滑な連携システムの構築に取り組んでまいりました。特に、地域の先生方が当院の予約を円滑にお取りいただけるよう、京都第一赤十字病院および京都府立医科大学附属病院と共同でWEB予約システムを導入いたしました。各地域の病院では、各診療科で異なるローカルルールがあるため導入が難航する中、3病院の各診療科が全面的に協力することでスムーズな運用が実

現し、地域の先生方から高い評価をいただいております。今後は、さらにシステムの改良を進め、健診後の患者さんが直接予約できる仕組みや、検査予約システムの導入を目指してまいります。

また、今年も当日の緊急受診依頼に対する迅速な受け入れ態勢の構築に努めてまいりました。2024年は、2023年と比較して当日緊急受診の依頼が大幅に増加した一方で、不応需の比率は減少しております。病院全体が「不応需を減らし、地域に貢献する」という意識を共有し、診療科医師にとどまらず職員全員が協力して取り組んだ結果であると考えております。今後も引き続き、職員一同「不応需ゼロ」を目指して努力してまいります。さらに、2022年より継続して開催している各医師会様との症例検討会や救急フォーラムも、今年も引き続き実施いたします。各診療科が協力し、充実した内容の症例検討会や、救急医療の在り方を考える意義ある場となるよう努めております。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

これらの取り組みを通じて、2025年も地域の医療機関様との連携を一層深め、患者さんにとってより良い医療を提供できるよう努めてまいります。今年も変わらぬご指導・ご支援を賜りますよう、何とぞよろしくお願いいたします。

令和6年度

京都第二赤十字病院 高度救命救急センター

地域連携フォーラム を開催しました

高度救命救急センター所長 石井 亘



式次第

第1部 ●15:00～ 小林院長挨拶

1.開会挨拶

京都第二赤十字病院
高度救命救急センター
所長 石井 亘(5分)

2.講演

講演①『高度救命救急センターの運営と取り巻く現状』(15分)
京都第二赤十字病院 高度救命救急センター
所長 石井 亘

講演②『総合診療入院システム体制の整備について』(15分)
京都第二赤十字病院
副院長 魚嶋 伸彦

講演③『当日緊急入院の増加に向けた取り組みについて』(15分)
京都第二赤十字病院 地域医療連携・入退院支援課
課長 田淵 宏政

休憩(15分)

第2部 ●16:10～

3.パネルディスカッション(60分)

座 長: 京都第二赤十字病院 第2救急科部長 成宮 博理
データ: 症例検討会
・前方・後方連携を行った内・外因性疾患の症例について

パネリスト 京都近衛リハビリテーション病院 院長 児玉 直俊
今井内科胃腸科医院 院長 今井 昭人
はまなかクリニック 院長 濱中 正嗣
京都第二赤十字病院 第1救急科副部長 荒井 裕介
京都第二赤十字病院 第1救急科副部長 中村 嘉

4.閉会の挨拶

京都第二赤十字病院
副院長 魚嶋 伸彦

高度救命救急センター 地域連携フォーラムの開催報告

2024年11月2日、救急医療体制をより充実させるために当院高度救命救急センターを主体とした病病・病診連携懇話会『京都第二赤十字病院 高度救命救急センター 地域連携フォーラム』をホテルモンテレ京都にて開催いたしました。2024年4月に高度救命救急センターの指定を受け、京都府内での急性期医療の中心を担っていくことが求められる中、2023年に引き続き2回目の開催となりました。第1部は、高度救命救急センターとしての現状、院内での総合診療入院体制の整備、救急における当日緊急受け入れ依頼や紹介の現状などについて医師からだけでなく地域医療連携課からも講演させていただきました。第2部では、救急告示病院やかかりつけ医院の先生方にもパネリストとして参加いただき、前方・後方連携について緊急患者の受け入れ体制や転院などについての課題や問題点をパネルディスカッション形式で行い、非常に活発な議論を展開していただきました。

地域の病院やかかりつけ医院の先生や職員様をはじめ、当院職員も含め約70名の参加をいただき、盛会のうちに終了いたしました。当院高度救命救急センターの使命である三次救急を円滑に行うだけでなく、一次・二次の急性期も含めて、地域の病院や医院との連携を強固にはかっていくことは非常に重要です。その課題などを共有し今後の新たな方策を導き出すため、継続したフォーラムの開催が必要と考えております。



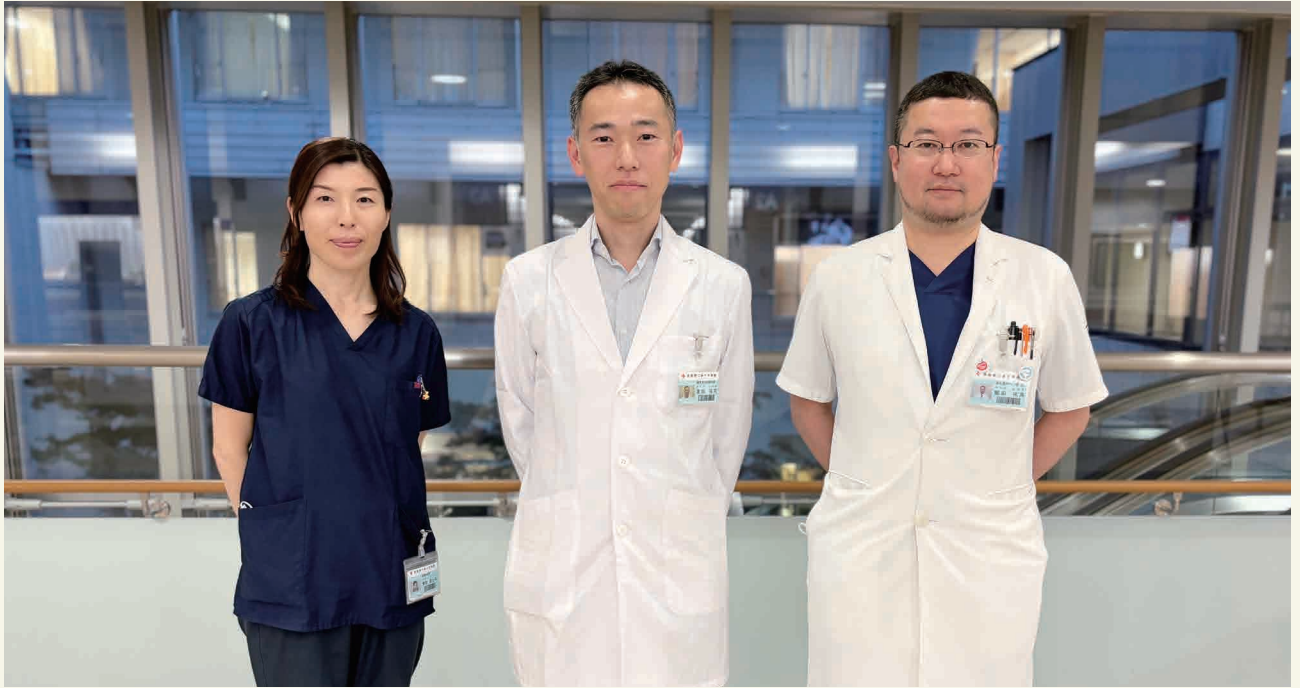
救急科医師紹介



懇親会



パネルディスカッション



皮膚科部長
曾我 富士子

乾癬は皮膚症状だけでなく、関節炎の合併、また、心血管疾患、糖尿病、脂質異常症、脂肪性肝疾患、ぶどう膜炎、うつ病など多くの併存症があり、全身の炎症性疾患と認識されており、早期診断・治療が重要とされています。関節病変や内科的病変の評価を含めて総合的な診療が必要なこともあります。また、皮膚は目に見える臓器であるため、皮膚症状を主訴として受診される自己免疫疾患も多数ありますが、他科の先生との速やかな連携が必要です。各科の先生と協力しながら、より良い医療を提供できるよう精進していきたいと思えます。



膠原病内科副部長
荃田 祐司

膠原病では、従来グルココルチコイド(ステロイド)中心の治療が行われていましたが、長期間のグルココルチコイド服用によって、感染症や脆弱性骨折、心血管イベントが誘発され問題となっていました。近年多くの分子標的治療薬が使用できるようになったため脱グルココルチコイドが進んできました。当院では、これまで脱グルココルチコイドが特に難しかった全身性エリテマトーデスや血管炎においても、多くの患者さんでグルココルチコイドfree寛解を達成できています。リウマチ膠原病が疑われる患者さん、治療に難渋しているリウマチ膠原病患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当科までご紹介ください。

地域連携フォーラムを開催しました

「地域で暮らし続ける」を支える多職種連携～糖尿病編～



当院を退院後の患者さん、外来通院中の患者さんが、その人らしく療養生活を送ることができるよう支援するためには、院内外の多職種連携が重要です。

2024年10月5日、5年ぶりとなる地域連携フォーラムを開催し、医師・看護

師・薬剤師・管理栄養士・ケアマネジャー・訪問看護師など、多職種の方にご参加いただきました。第1部の懇話会では、代謝・内分

泌内科の山崎真裕部長の講演で始まり「98%が自己管理」といわれる糖尿病患者さんの療養に「残る2%でどこまで医療者が、指導ではなく支援できるか」とのお話がありました。続く他職種からの講演においても「どう支えるか」「その人個人に合わせて」など、共通のワードが聞かれ、糖尿病ケアチームとして、患者さんに寄り添う姿勢を感じました。第2部ではコーヒーとお菓子でほっこりしながら、名刺交換や情報交換・共有の場を持ちました。

院内・院外から、「多職種からの専門的な話が聞けて有意義な時間だった」「患者支援の参考になった」「他職種と話ができて良



消化器内科医長
堀田 祐馬

消化器内科では、クローン病、潰瘍性大腸炎、腸管ペーチェット病を主に担当していますが、関節病変や皮膚病変、眼病変といった腸管外合併症は決して珍しくなく、当院の自己免疫疾患センターにおける垣根の低い連携は専門的かつ速やかな対応が可能です。2024年4月から日本炎症性腸疾患学会の専門医制度が開始になりましたが、当院は京都府内で6施設の「IBD指導施設」の一つとして認定を受けました。改めて、京都市内における難治性IBD症例の受け皿としての責任を実感しており、より多くの患者さんの役に立てるよう、さらなる体制の強化に努めてまいります。

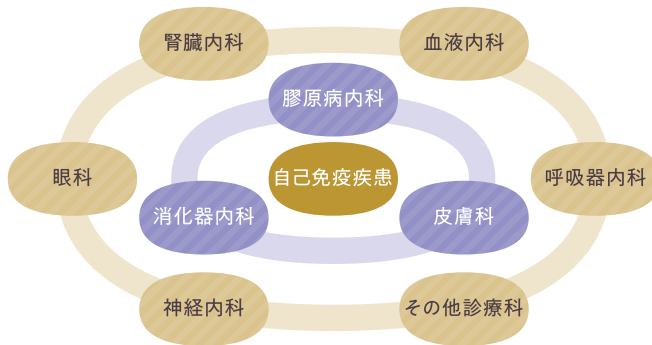
自己免疫疾患センターについて

2024年1月から当院で自己免疫疾患センターを設立いたしました。

自己免疫疾患は免疫が自分自身の臓器を攻撃することで発症する疾患群で、ほぼすべての診療科において診療が行われています。自己免疫疾患は多臓器が同時に侵され、また複数の自己免疫疾患が重複することも多いため、診療科間の連携が非常に重要になってきます。一方で、近年自己免疫疾患に対する分子標的治療薬(生物学的製剤やJAK阻害薬など)が次々と登場しており治療の専門化が進んでいます。当院は高い専門性を有する診療科がそろっており、また診療科間の垣根が低いことから自己免疫疾患診療を得意として

います。特に、関節リウマチ、潰瘍性大腸炎、クローン病、乾癬などは、共通する分子標的治療薬を用いることが多く、普段から膠原病内科、消化器内科、皮膚科は密に連携しています。このたび、これらの三科合同で自己免疫疾患センターを設立し、京都市における自己免疫疾患診療の拠点として貢献してまいります。これらの疾患が疑われる患者さんがいらっしゃいましたらどうぞ当院までご紹介ください。その他の診療科とも自己免疫疾患の診断・治療について情報共有し、互いにコンサルトしやすい環境をつくっておりますので、上記以外の自己免疫疾患患者さんもぜひ当院にご紹介をよろしくお願いいたします。

当院の自己免疫疾患センター連携図



京都市における
自己免疫疾患診療の
拠点として貢献
してまいります



かった」などのお言葉をいただきました。また「メールで問い合わせができないか」などの提案もいただき、より円滑な連携に向けて検討していきたいと感じました。顔が見えるだけでなく心も通う、そんな連携の会を今後も続けていきたいと思います。本会に参加いただいた皆様に感謝いたします。



サクッとラクに予約できる!

SAKU洛連携システムをご活用ください

SAKU洛連携
サクッと、楽に予約ができる!
サクッと、ラクに地域連携!

インターネット診療予約システム
予約を希望する連携先病院の名称か写真を選んでクリックして下さい。

京都第一赤十字病院	京都第二赤十字病院	京都府立医科大学附属病院
		
→ご利用ガイド	→ご利用ガイド	→ご利用ガイド

ログアウト



WEBシステム予約取得医療機関数(当院件数)

77 → 121 機関に
増加

登録がまだお済みでない医療機関様はぜひ登録申請をお願いします。
ご不明な点等ございましたら地域医療連携係(075-212-6186)まで問い合わせください

お知らせ

◆ 近隣医療機関との症例検討会開催のお知らせ

日時 3月13日(木) 16:00~懇話会 18:00~懇親会

場所 ホテルモントレ京都

対象診療科 消化器内科、循環器内科、血液内科、整形外科

詳細は決まり次第お知らせいたします



◆ 赤十字フェスタ in Kyoto 開催のお知らせ

一般市民の方を対象に健康講座の開催や健康相談コーナー、有名人によるトークセッションなどの企画を予定しております。
詳細が決まり次第ホームページ等でお知らせいたしますので多数のご参加をお待ちしております。

日時 3月1日(土)2日(日) 10:00~16:00

場所 イオンモール京都 Sakura館4館 Kotoホール

主催 日本赤十字社京都府支部・京都第一赤十字病院・京都第二赤十字病院・京都府赤十字血液センター

参加
無料

地域医療連携だより

かまんざ

vol.18 2025.1

+ 京都第二赤十字病院 地域医療連携・入退院支援室

〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町355番地の5

TEL 075-212-6186

FAX 075-212-6358

WEB <https://www.kyoto2.jrc.or.jp>